

佐久市駒の里過疎対策プロジェクト支援金事業 自己評価報告書

		評 価 日	令和4年3月28日
団 体 名	望月小唄保存会		
事 業 名	郷土芸能継承事業		
対 象 経 費	455,940	支援金交付対象経費	455,940 円
支 援 金 額	227,000		

事業の目的・内容	目的
	望月小唄保存会として、地域の伝統的な郷土芸能である望月小唄を伝承・普及させていきたい。しかし、現在の会員は高齢化してきているため、新たに若い世代の会員を増やし、未来への展望を拓くため、望月地域の若い世代の方々に望月の文化に触れてもらい、望月小唄を通して、地域の活性化を推進する。
事業の活動実績	内容
	①有線放送、チラシ、ネットなどを通じて会員を募集する。②初心者が笛・三味線・太鼓・唄・踊りを基礎から練習する。③市内から楽器の寄付を受け、それを修繕して新会員の練習と演奏に資する。④新しい会員を含め、榊祭り、公民館文化祭、小中学校の催しなどに参加する。望月地区外の行事にも積極的に参加する⑤望月地区の公民館講座「郷土芸能」を企画実施する。⑥望月地区内外や移住者との交流会を開催する。⑦公民館の郷土芸能講座などで、冊子「望月小唄90年の歴史」を配布し活用する。

事業の活動実績	①会員を13名増やすことができ、合計29名と倍近い人数になった。踊り1名、笛1名・三味線10名・太鼓1名の増加である。②望月小学校運動会では、保存会として踊りの指導、当日の演奏を担当した。③佐久市内みどりの村を運営する東京工学院専門学校（テクノカレッジ）の文化祭に参加し、踊りと演奏を披露した。④榊祭り、公民館文化祭、望月地区外の行事等はコロナ禍で中止となり、残念ながら参加できなかった。⑤佐久市に移住してきた人たちの加入もあった。
---------	--



この冊子は昭和45年、望月小唄保存会が発行した会誌の表紙。特設ページが望月小唄のために設けられたもの。
（資料提供 中山藩史料館）

制作 望月小唄保存会
望月小唄祭り実行委員会

望月小唄 90年の歴史

■「望月小唄90年の歴史」2021年、佐久市まちづくり協議会主催で開催されています。



昭和35年、日本ビクターレコード株式会社から望月小唄のレコードが発行された。望月小唄 昭和35年（昭和35年）7月 20日
白紙（昭和35年）と記載されている。

望月小唄 90年の歴史

発行 平成30年（2018）7月 20日
令和3年（2021）7月 20日
望月小唄保存会
望月小唄祭り実行委員会
印刷 白田活版株式会社

別記様式第5号（6の2関係）〔2枚目〕

事業の成果・効果	新しく入会した若いメンバーも加えて練習に励み、高齢化が心配された保存会の活動に明るい展望が持てた。望月地域内外で望月小唄を演奏することにより、望月の文化を全国に広げていくという活動の一端を今後も担っていけるようになった。地域の活性化にも役立つ活動でもある。望月地区には今移住者が増えている。その移住者にも参加を呼び掛け、会員になってもらった。榊祭りを初め、さまざまな文化行事がコロナ感染の影響で延期や中止になり、例年通りの活動ができなかったことは、残念であった。
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	1 できた ☐ 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入 新しい会員と練習し、活動できたことはよかった。
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	1 できた ☐ 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入 会員を増やし、練習し、全員が演奏できるようになったことは大きな成果だが、さまざまな行事が中止になり、対外活動が制限されたことは残念であった。
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ ☐ 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由（2、3と答えた場合のみ） コロナで会場使用ができなかった期間があり、講師謝金が若干減額した。
	その他、評価すべき点等	新会員の練習がとても熱心で、上達も早かった。

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	増えた会員を大切に、アフターコロナで様々な行事に参加し、演奏や踊りの水準を高めていきたい。
---------	---